

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所のあり方については、今までの理念の上に「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本として位置づけをし、地域に開かれた施設として取り組み、質の確保を目指している。	○ 積極的に地域活動に参加し、地域との交流に努め開かれた施設にしていこうと心掛けている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス及び、勤務終了時の報告などを通じて理念を共有具体化できるようにしている。またその思いを基に標語や心に残る言葉の共有等を職員全員で考え掲示している。	○ 関わりや具体的なケアが、理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。心に残る言葉が共有出来る事で、職員間の足並みが揃っている事を実感できている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域推進会議や家族合同茶話会、法人の祭りや文化祭を通じ、利用者が行事や日常生活の中で地域に出掛けていることを知らせている。	○ 運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を呼びかけている。形式ばかりでなく気軽に参加できる雰囲気を作っている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やお店に気軽に出かけ、お店や近所の人達と顔なじみとなり会話が弾んでいる。畑仕事を教えて頂いたり、お店の人と顔なじみになる等交流を深めている。地域の清掃や校区の交流等に声を掛けて頂けるようになった。	○ 今まで築いてきたものを大切に、今後にお付き合いを発展させて行きたい。世間話や、情報交換のなかから親睦を深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々と連絡しあってお祭り、花見、七夕まつり、もちつき、ヤキイモ大会等に参加している。また、他地域からも声をかけて頂き、小学校の祭りに参加している。時には施設へお招きして、祭りや交流会などを行い、行き来している。	○ 学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流の機会を多くし、地域活動に参加、交流を深めて行く。法人在介主催の介護者教室にて、認知症を理解する為の寸劇を行い普段大切にしている事を伝えられるよう取り組んだ。第2話の依頼もあり行なっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みは行っている。 (募金活動・車マナーコンテスト・大規模災害の消防協力・緊急災害時の避難場所)	○	事業所として、高齢者の暮らしの安全確保に役立つことを話し合い取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、指摘があった所はもちろん、出来ている事出来ていない事を再確認し、翌日から改善に取り組んでいる。また改善点も長期に有効活用出来る様にしている。	○	事業所の理念を忘れず職員一人ひとりの考えを活かし、同じ気持ちを共有したケアを心がけている。時に調査報告書を読み返し、振り返り、又、次の段階の取り掛かりとなる様にしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族に事業所での生活や暮らしぶりを写真や広報誌、ビデオ上映等で分かり易く報告している。また、利用者にも数名参加して実際の声を聞いてもらい、率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。在介主催の介護者教室にて認知症の寸劇を行い、会場で発表した。	○	いろいろな意見が出やすい雰囲気作りに努めたい。今後もいただいた意見をサービス向上に活かせる様にしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会の開催や、ケースやプランの相談等連携は適宜行われている。	○	常に連携をとり地域のニーズや新しい情報を知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会や文献等、法人からの情報で学習している。	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置しており、勉強会を行い何が虐待となるのかマニュアル等を含めて一人ひとりに考える機会を持つようにしている。	○	閉鎖された空間の中、忍耐強く関わらなければならない状況にあって虐待に至らなくても、抱え込んでしまわない様に職員同士の支えあい、ストレスの発散など留意していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者の意見が日常生活の中で実現できる様に努め、自然に不満や苦情を言ってもらえる様な関係作りをしていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	金銭トラブルがないよう保管場所になどに気をつけている。出納帳に家族の確認サインをもらっている。お小遣いの用途などからも生活が伝わることもあり、使用した品目を説明しながら、家族との情報交換も行っている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会（茶話会）において家族だけの時間を作り、代表の方に意見を伝えてもらうようにする。また、運営推進会議でも意見を聞いていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後も職員と意見交換を行い運営に反映させて行く。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	有効な調整となるようカンファレンスの持ち方も勉強して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	異動2~3ヶ月前より顔馴染みとなれるよう勤務調整をしたり、引継ぎの期間に幅を持たせ、継続したケアが行われるようにする。また、事前や事後にきちんと挨拶する機会を持ち利用者の混乱を防ぐ。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに年間通じた計画において研修の機会を設けている。研修内容は報告する場(勉強会)で発表している。また、実習生を積極的に受け入れ、外部からの新鮮な気付きを確保する為に可能な限り記録類や実習カンファレンスの内容を職員に伝えている。	○	研修報告書を全職員が読み、活かして行きたい。毎日が積み重ね、勉強であると言う姿勢を忘れないで行く。又、職員からの要望を受け入れ勉強したいという事柄を取り入れていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させて行きたい。計画作成担当者の勉強会は、他ホームの計画を拝見でき参考となった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ったたりなど行き詰らない様に配慮している。	○	働きやすい環境づくりを心がけ、利用者から受ける喜びや感動、感激、また失望・落胆を共有できるようにしていく。又、お互いが持っている苦労や解決法などを話し合い、分かち合える様にする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1度の勉強会で技術であれば、お互いに体験し合い、知識の習得であれば利用者当てはめて考える等、一方通行にならない様、意識を持って取り組める様務めている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるようにして行きたい。勉強会、研修などは今行っているケアの確認、気付きなどにもつながり前向きに取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。1人ひとりからの話し合いの中で求めている事柄を気づき、話しを聴く時間を作る。	○	初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは、家族から職員に言いやすい雰囲気を作る事が重要。気安さだけでなく受容を重視したユニットの体制作りを試みる。家族の立場から物事を考え、不安や困っていることを具体化し、求めていることは何か理解に努めている。	○	本人だけでなく家族の立場での不安、求めていること迄をも視野に入れることはたやすいことではないが努力して行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性を見極め法人全体での支援を行っている。	○	緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来て頂いたり、利用者の紹介や、部屋の案内など、家族と相談、協力してもらいながら、臨機応変に対応していく。	○	職員は暮らしやすい環境作りに努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症や周辺症状の日内変動があってもその瞬間瞬間を柔軟に受け止め、尊厳をもった関わりをしていく。また、家族に近い関わりを持って、信頼関係が構築できる様努める。日常、何気ない普通の会話を大切に積み重ねていく。	○	利用者がふともらした一言で、泣いたり笑ったり、そして元気をもらったり、毎日が学びであり、又、その事を実感できる喜びがお互いを支えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の声かけでは入浴しないが、奥様とはさつと入浴されるなど家族と一緒に支えていることを意識している。また、その意識を家族の方々にも感じて頂ける様、家族と本人の関わりも支援して行く。家族がお世話になっているという負い目を感じさせないよう配慮して行く。	○	職員を大笑いさせてくれた○○さん語録を書きとめておき、それを家族に伝えまた大笑いするなど、職員が得たものを何らかの形で家族に伝えていく。生活するのは自宅ではないが家族の役割はここでも同じであることを伝えて行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の関係が継続できるよう働きかけている。遠く離れたところに住む息子さんのことや娘さんのことを折にふれ伝える等努めている。手紙のやり取り等を行えるよう支援し、お孫さんの入学の報告を聞き、近況等を綴った返事を出すようにしている。	○	本人の気分の乗る時に勧める等、家族へ向けた支援が家族や本人の負担とならないような配慮もしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の情報を得て会話の中でその話題を提供したり、法人内デイサービスを利用中の知人に会いにいたり、馴染みの方とのふれあいを大切に持続できるように努めている。馴染みの店や畑での触れ合い等、人間関係が徐々に作られている。	○	入居が長期化しており、関係を継続させる事の難しさを実感している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	周辺症状の変化に対し、他の利用者が違和感をもってそれがその方の全てではないことをその都度話している。行動だけではなくあいさつやありがとうなどの言葉はきちんと伝え利用者同士が支えあっているという意識をもってもらうよう努めている。	○	「ありがとう」って言っていますよ、とわかり易いジェスチャーを加え、利用者同士の関係をより円滑に出来る様に間に入ることもある。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの馴染みの関係が持続できるような関わりや、いつでも気軽に尋ねて来られる様な雰囲気作りに努めている。	○	馴染みの関係として時には懐かしく思えるような心の支えとなるよう入居中からの関わりを持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたことや、家族や関係者よりあつめた情報を職員間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。	○ その時々によって変化する希望や意向を職員間で検証し、検討して行きたい。また、結果が出た時は家族に伝え共に喜びを共有する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。	○ ここでの生活に取り入れることが出来るところに關しては積極的に取り入れていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	廊下を歩いているときや、居間にいるときなど様々な場面で何気ない何気ない表情を読み取ることで心身状態を読み取り、現状把握に努めカンファレンスにもって行く。	○ ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及び職員の情報収集し、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。何気ない家族の言葉から介護への想いを汲み取るようにしている。	○ 必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングが次の介護計画へとつながる様に持って行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期が来ていなくても、見直しの必要がある時は随時カンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。随時、行なうためには職員間の連携も充実させる。常に同じケアが提供出来ている事が重要。	○ 話し合う機会はすぐに設けている。対応が遅れると状態が変わってしまう症状をもつ利用者が多いので迅速に対応出来る様に心掛けている。また、中々話す機会を持ちにくい家族もあるので機会を設けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に詳しく記載されており、見直しにたいへん役立っている。プランに組み込む事項は、その都度書き足していく。	○	特に注意すべき点や、気になる行為等は、考察欄、マーカー等を活用して簡潔に見直しができる様にして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院治療を受けるのが適正かどうかの検討や入院後の経過によって早期退院の支援を行っている。本人や家族の状況に応じて必要な支援に柔軟に対応している。	○	状況に応じてのショートステイの受け入れを開始した。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の出初式や学校の文化祭、校区の催し等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。地域の民生委員からは行事に招かれ顔なじみになっている。	○	毎年、参加する行事が増えている。今後ももっと多くの協力機関を作って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには地域推進委員会にも出席を得て、必要な情報を提供してもらったり、近隣事業所との情報交換の場を設けてもらい、良い交流の場となっている。	○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での継続した医療を受ける支援をしている。また、定期受診で家族同行不可能な場合は職員が同行している。歯科訪問診療を定期的に受診し継続的な医療を支援している。	○	今後も家族やかかりつけ医との連携を密にしたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医の診療を受けている。利用者に関する相談も職員はアドバイスを受けている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑長・看護師兼務となっているが、いつも利用者側で関わって常に見る事が出来、数値には出ない様子を感じ取る事が出来る。	○	看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチする職員の声に耳を傾けて行くこと。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際、看護、介護サマリーの提出により利用者の情報を医療機関に伝え、治療・療養が継続できるように配慮している。また、入院中は状態に応じ面会を行っている。	○	医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけて行く。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の関わりの中から本人及び家族の意向を早い段階から汲取り、事業所が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合いできるだけここで生活が続けられるよう職員間で方針を共有している。	○	本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。又、重度化していても、ありのままの姿を受け入れるよう務め、支援について自己研鑽を積んで行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の状態・家族の希望をふまえ、事業所が対応しうる最大の支援方法を職員間で明らかにし、それが重度や終末期の利用者にとってより心地良く暮らして行ける手助けになるか話し合っている。	○	それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んで行く。利用者の方々が最後まで居心地が良い自分の希望する場所で過ごせる様、本人の状態の把握、ユニットの情報の共有、またケアの統一化を図って行きたい。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝えるようにして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの希望があった場合、利用者本人と何度も話し合いを重ねると共に家族の意向も踏まえダメージを防ぐよう努めている。他のグループホームや施設からの入居に際しては生活状態、状況、サマリー等を参考にし、環境の変化を最少限度にとどめるよう努めている。	○	現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。前の施設ではどんな様子であったか？また住み替えの原因は何であったか？などの情報を得る。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることのないような関わりを日々言葉を変えながらも考えまた、職員同士も指摘し合い意識の向上に努めている。言葉掛けや、話し方、声の大きさにも充分注意する。また、記録等の書類は厳重に保管している。	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしくお互い楽しく生きて行けるような支援をしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重すると共に、自分の意見が言いづらい人や自己決定しづらい人の何気ない仕草や立ち上がり動作からも意思を汲み取れるよう努めている。	○	食べること、着ることはもちろん行きたいところ、したいこと等、辛い事、楽しい事も一日一日の自分で決める経験の積み重ねが毎日の生活となるようまた、普段していることが快適にでき、したいと思える様な環境づくりを支援をして行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間は一応設けているが、本人の希望、体調、ペースに応じての支援を行っている。また、日々異なる希望に対しても柔軟な対応ができるようにしている。	○	今までの生活歴や個々の意志に基づいて価値観の違いを認識しその人らしさが実現されるような支援をして行きたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容・美容店に本人からの希望があればなるべく早く行くようにしている。また、家族に好みを聞き、衣類（上下）を合わせている。昔からの理容に月1回家族と行くのが習慣になっている等これまでの生活習慣を引き継ぎ、家族の協力も含めた支援に努めている。	○	一人ひとりよく似合う服装や好みの色を日頃から知っておき、本人が着たい服などは形にこだわらないようにし、それに職員がおしゃれのワンポイントを添える。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>本人の食べる時間やリズムに合わせて食べられるようにし、食事をしようとする意欲や楽しみを尊重し、あまり手を出さずに介助や見守りなどを行い自立に向けた介助を心がけ、清潔で明るく楽しく食べられるような雰囲気作りを行っている。又、早くから調理せず時間に合わせて調理の音や料理の匂いなどを大切にしている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>ほしい時にほしい物を提供することを目指して行きたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>声を掛ける時の声の大きさや場所等、羞恥心を考慮している。また、トイレで排泄できたときにみんなで大喜びできる雰囲気があり、気持ちよく排泄できるよう支援して行きたい。しかし、把握はしていても実現する難しさを実感する場面も多くある。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>希望やタイミングを見計らい、介助の必要な方の入浴は1対1の格別な素顔をのぞけるいい時間となっている。気持ちがゆったりとしたよい時間である。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>眠いサインを見逃さず、入眠がスムーズに図れるよう支援して行きたい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>元ソフトボールをしていた利用者と職員との風船バレー対決は自然に他の利用者も参加してしまう雰囲気がある。画一的楽しみ事ではなく一人ひとりに合わせたものを探して行きたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方にも出しやすいようにお札を用意したり、お札に触れなくても「おいくらですか」など店員とのやりとりができるような橋渡しを行っている。また、本人の使いなれた財布を用意してもらい支払いの際には使用してもらう事も考慮している。	○	お金に対し関心のない方でも新聞広告や雑誌などで会話を楽しんでいる。本人の出来る事の幅を職員で決めてしまわないように心がける。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や天候に応じて季節を感じる畑や公園、生活感のあふれるスーパーでの買い物、習慣になっている月1回の散髪等、個々に合わせた外出。それぞれの意義を考えながら戸外に出かける援助を行っている。外出表を作成し状況を解り易い様にしている。	○	季節のよいときにはもっと外出する機会を増やして行きたい。全体だけでなく個別に計画を立てて行きたい。また、天候によっては突然的に外の空気を吸いに行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	貸し切りバスを利用しての遠足に出かけ、小旅行気分を味わっていただいている。また、決まったプランではなく現地では自由に行動してもらえようにする。	○	希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。また、家族参加も視野に入れた外出も企画して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	奥様やお子さん、お孫さんに電話をかけたり、お姉さんやお孫さんに大学合格のお祝いの手紙を書いたりしている。近くの郵便局まで手紙を出すのに付き添ったりしている。返事の手紙やメールが来ると、職員共々、一緒になって喜んでいる。	○	文章のみならず写真や、広報誌なども同封し近況をお知らせする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちのよい挨拶を心がけ、ゆったり静かに過ごせるよう配慮し、時には本人と家族だけの場面を作るよう心がけている。	○	居心地のよい入りやすい雰囲気を作り出したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で指摘し合えるような雰囲気作りを心掛けている。また委員会を設置し何が身体拘束なのか勉強している。日々のケア、声の掛け方が身体拘束になってはいないか振り返る機会を事業所の勉強会の中にも設けている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。何気なく行っていることも、自分自身に置き換えて本当に良いかどうかを再度考慮していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>行きたいところへ行く自由さと安心をもってもらえるようにしている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>安全面とプライバシーの配慮、この二つを両立させるのは難しいケースもあるが不快な思いをさせないようにしたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>食品の防腐剤、乾燥剤にも配慮し場合によっては袋のまま出さない様に心掛ける。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合い、○○○さんにも起こる可能性がある…と具体的に示すことで事故の再発防止に努めて行きたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。毎年、危険に対しての備えを増やしていくために、誤嚥時、転倒時の対応マニュアルと受診時の流れチャートを作成した。訓練を積んでいきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>近隣住民の協力も得られるよう働きかける。毎年、新たな災害に備える様に訓練や備蓄品のチェックを行っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。又、ケース記録に目を通してもらう。	○	家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深める。本人らしい暮らしを大切にしてもらう事と、それに対するリスクの大きさについて実感してもらう。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、顔色、活気、姿勢、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	1人1人の普段の様子を把握する事によって、異変があった際には速やかな対応が出来る様に心掛けていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、薬に対しての理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。又、常に更新し薬についてすぐに分かる様に情報表を整理している。	○	配薬時に名前と日付を確認し、口頭で読み上げる事によって誤薬のないようにしている。服薬を拒否する利用者への支援が課題となってきた。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が落ち着きのなさや、食欲低下につながることを理解し、防ぐために冷たい牛乳、ふかしいも、寒天、オリゴ糖、ヨーグルトなどの飲食物の工夫を行っている。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通を良くする食材なども取り入れる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	居間に各自のうがい用コップを用意している。自力で難しい人には毎食後ケアを行っている。また歯科衛生士の資格を持つ職員からケアのアドバイスももらっている。定期的に歯科医の往診がある。	○	物品を常に清潔に保てるようにして行きたい。又、自分で行なう事が難しい人へのケアについて思案している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、本人必要量を理解した上1週間単位で状態が把握できるようにしている。表は記入するだけではなくさかのぼって確認し摂取状況を把握しておく。	○	苑長・リーダーは法人内給食会議にて食事内容について各部署の意見交換・検討を行い、より良い食事の提供となるよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励やマスクの使用、布団の乾燥、空気の入替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。職員の職業意識に鑑み自ら健康管理にも努めていく。また、新たに委員会を法人にて設置し現在Q & Aの作成に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。また、食品衛生責任者の資格を持つ職員からアドバイスを受けている。食材の安全は分割するものや調理担当者2名以上の職員でチェックしている。	○	食器やまな板、布巾など毎日消毒出来る所を増やしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ることもあり、陵東館秀光苑の表示板は最高年齢の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	特養を經由しての玄関ということで分かりにくいという見方もあるが玄関を出ると、馴染みの特養・ショートステイの方々、、、という安心感にも繋がっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に漂う朝一番のお茶の香りで起きてこられた利用者を迎えるようにしている。午後の西日はすだれやカーテン、植木鉢でさえぎり、不快にならないように留意している。行事の写真は思い出話しから次はどうしましょうとの活力を生み炊事の音や御飯の炊ける匂いなどは「もうすぐ食事」と時間を忘れた利用者の五感に伝えてくれる。	○	さらに今後は入居者の個別の好みなども取り入れてより快適な空間を作って行きたい。また、人も環境であるという事も忘れない。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の隅に1人がけと2人がけのソファを置き、それぞれの利用者の居場所となっている。家族がこられた時は憩いの場になったりと活用されている。 また、居室廊下前にもイスやソファが置かれており、利用者同士の朝の語らいの場となっている。	○	ソファにはクッション等も置き、一休みもできるようにしている。サイドテーブルなども置き飲み物を置いて家族や知人との交流の場とする事が出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	畳を用いたり、昔の写真や、結婚40周年の家族の 寄せ書き、かつての作品、孫からの絵手紙や家族 写真など想い想いの品を居室に置くことにより利 用者がホッと出来る自分の部屋だと認識できる空 間になるよう配慮している。	○	今後は家族の協力を得て本人の馴染みの物をもつ と沢山置けるようにしたい。また、一人ひとりの 動き慣れた動線（目線）が変わらない様に心がけ ている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気の入替えや室温調節は動きの少ない利用者 に合わせるようにしている。排泄物において利 用者が混乱しないよう瞬時に消臭したいときは消 臭スプレーを用いることもある。	○	常に室温等を気にしながら利用者が最適な温度で あるか手足に触れて確認するよう配慮する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室のイスを伝って移動し洗面・戸棚を開けて着 替えを取り出す事が可能となるようなベッド、イ スの配置を考えたり、階段を使用したり、見守 りの元自立した生活を送れるようにしている。	○	背丈の低い利用者へはその方に合ったテーブルを 用意している。椅子は足が床に付く高さにしてい る。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	オレンジのお盆・黄色い椅子・桃色のティッシュ の箱・トイレの青い取っ手など混乱しないような 工夫をしている。食事も自力で食べることができ る様キザミ食にして専用のスプーンを使用しても らったりと工夫して自分で食べることが出来る力 を少しでも長く継続してもらう。	○	トイレの場所が分からず階段・床で排尿する事が あっても排尿動作ができる事、また食事動作を忘 れてしまっても一口介助すれば思い出すこともあ る等わかっている事をまず認めて、それからどう すれば良いのかを個別に関わりながら対応してい く。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	外回りは洗濯物を干す際に庭木を見たり、風を感 じたり、隣店の中華料理が匂ってきたり、セミの 声を聞いたり、季節や外の様子を感じる場所と なっている。	○	安全にベランダに出れるようにし、外の空気に触 れる機会を増やしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方が、ありのままの姿で生活を送っていただける様、一人ひとりに寄り添い、ありのままを受け入れ、日々の関わりの中で気付いた事や、些細な事でもスタッフ間の情報を共有し、「落ち着いた空間で・慌てず・ゆっくりと」というユニットの目標を掲げ職員全員が意識し足並みを揃えようとしている。1人の利用者が歌い出すと、ある方は一緒に口ずさみ、ある方は手拍子をしたりと、何気ない平凡な事が他の利用者の方々、職員にも伝わりそれをみんなが大事にしている。1人の笑顔が伝わっていき、皆の笑顔になっている。毎月作制する行事予定表では、利用者の方が自ら作成に携わり、時にはアドバイスやダメだし？をしてくれる。また、洗濯物たたみや食器洗いを率先してしてくれる方もおり、それぞれ自分の役割を持ち自分で出来る事を自分で出来る生活を送っている。家族の方々との交流も大切にと考えており、面会に来られた際は皆様の様子をお伝えするだけではなく、行事等がある際にはお誘いをしている。また遠方で住む家族の方から連絡が来ると利用者の方が書いた手紙と共に、広報紙や日頃の活動の写真を添えて送付させて頂き家族の絆を繋げている。行事で撮った写真は皆さんとてもいい表情で、その中の一コマがコンクールで表彰される等、自然な笑顔があふれている。少しでも近所へ散歩に行ける時間を作り、外出の際には顔見知りの方や通りかかった子供たちと触れ合う機会となり、畑にて収穫の際は、隣の畑の方々と一緒にイチゴを摘んだり、地域の行事に呼んでいただいた際は校区の方々との交流を持つ事で地域とのつながりも毎年少しずつ広がっている。